

羈旅の歌一首 并せて短歌

三八八番

海神は くすしきものか 淡路島 中に立て置き  
 て 白波を 伊予に廻ほし 居待月 明石の門ゆ  
 は 夕されば 潮を満たしめ 明けされば 潮を  
 干れしむ 潮さるの 波を恐み 淡路島 磯隠り  
 居て 何時しかも この夜の明けむと さもらふ  
 に 眠の寝かてねば 滝の上の 浅野のきぎし  
 明けぬとし 立ちさわくらし いざ子ども あへ  
 て漕ぎ出む にはも静けし

反歌

三八九番

島伝ひ 敏馬の崎を 漕ぎ廻れば 大和恋しく  
 鶴さはに鳴く